

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの夢と志を育み、よりよい未来社会を創り出す学校

- 1 「進取・創造・敬愛」の校訓のもと、早くから興味・関心の現れやすい「4つの分野(ものづくり<理工>、スポーツ、言語、芸術<美術・デザイン>)」の才能を6年間の計画的・継続的な一貫教育で伸ばし、「大阪の発展を担う将来のスペシャリスト」を育成する。
- 2 安全・安心な教育環境のもと、専門性・多様性・交流性・一貫性を生かしたカリキュラム・マネジメントを通して、確かな学力や高め合う集団、自主自立の習慣を育成し、学びと育ちの質を高めながら一人ひとりの個性を磨き、生きる力の伸長をめざす。
- 3 併設の咲くやこの花高等学校(以降、高等学校)や地域社会、専門機関等の様々な人々との連携・協働を通して、一人ひとりのキャリア発達を促すとともに、豊かな人権感覚を育み、夢と志の実現に向けて、新たな価値を創造する意欲や態度を培う。

2 中期的目標

1. 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める

(1) 確かな学力を育成する

- ア 校内研究授業や授業アンケート(1学期・2学期)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。
- イ ICT環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。
- ウ 学力調査(全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査)を活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、一人ひとりの資質・能力のよりいっそうの定着を図る。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「学校のさまざまな取組で、考える力や自主性をのばすことができる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には90%以上を維持する。(R4:90% R5:90% R6:92%)

(2) 高め合う集団を育成する

- ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。
- イ 学級活動や分野別学習等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。
- ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、学級活動や学校行事を通して、楽しく信頼できる仲間づくりを心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には90%以上にする。(R4:86% R5:87% R6:89%)

(3) 自主自立の習慣を育成する

- ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。
- イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。
- ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。

※(保護者対象)学校教育自己診断、「学校は生徒がルールを守るように適切な指導をしている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には95%にする。(R4:93% R5:94% R6:94%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、授業の宿題や課題に対して積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には85%以上を維持する。(R4:84% R5:83% R6:85%)

2. 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う

(1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる

- ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学<研修>旅行)や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。
- イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「私は、高等学校での系列学習につながるような分野別学習に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には90%以上にする。(R4:86% R5:88% R6:89%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「学校は、特色ある分野別学習や部活動などの教育活動がある」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には95%以上を維持する。(R4:95% R5:95% R6:96%)

(2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う

- ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。
- イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。

※全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には80%以上にする。(R4:69% R5:75% R6:76%)

※(生徒対象)学校教育自己診断、「将来の進路や職業について考えている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には75%以上を維持する。(R4:73% R5:76% R6:76%)

3. 安全で、安心して学べる学校づくりに努める

(1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める

- ア いじめについてのアンケートや教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。心理テストの分析結果に基づくアセスメント等を通して支援が必要な生徒を的確に把握する。
- イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。

※(生徒対象)学校教育自己診断、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には90%以上を維持する。(R4:90% R5:92% R6:91%)

(2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する

- ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。
- イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。

※(保護者対象)学校教育自己診断、「学校は健康管理の指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には90%以上にする。(R4:84% R5:86% R6:88%)

(3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う

ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。

イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。

※(保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は相手を思いやり人権を大切にすることを生徒の育成に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には90%以上を維持する。(R4:88% R5:89% R6:91%)

4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める

(1) 働き方改革を推進する

ア 業務の効率化を進め、教職員の長時間労働を縮減していくとともに、高いコンプライアンス意識に基づいた、働きやすい職場環境づくりに努める。

イ 学校医や産業医からの助言をふまえて、生徒や教職員の健康・安全に配慮した職場環境づくりに努める。

※時間外在校等時間月80時間以上の教職員の割合を令和9年度には5%以下を維持する。(R4:9% R5:6% R6:1%)

(2) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う

ア 授業参観(各教科・分野別学習)や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。

イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。

ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。

※(保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、雰囲気がよく生徒がいきいきと学校生活を送っている」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には95%以上を維持する。(R4:94% R5:94% R6:95%)

(3) 情報発信・研究活動を充実させる

ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。

イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。

※(生徒対象) 学校教育自己診断、「咲くやこの花中学校へ入学してよかった」の項目で、肯定的な回答の割合を令和9年度には95%以上にする。(R4:91% R5:93% R6:94%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者による回答】</p> <p>26項目の設定中、4項目を除いて肯定的な意見の割合が80%を超えており、本校の教育活動に対する高い満足度を維持している。保護者の「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」の肯定的意見の割合が昨年度より大幅に減少している一方で、生徒の「私は、日々の学習を通して学力の向上が感じられる」の肯定的意見の割合は上昇している。生徒が楽しみながら学力の向上を実感できる授業をめざし、生徒のニーズを適切に捉えた授業改善に取り組んでいきたい。また、昨年度以上に保護者の「家庭では、生徒1人1台学習者用端末を効果的に活用している」の肯定的意見の割合と生徒の「私は、生徒1人1台学習者用端末を効果的に活用している」の肯定的意見の割合が大きく乖離しており、家庭学習における1人1台端末の効果的活用について再検討を行う必要がある。</p> <p>【生徒による回答】</p> <p>26項目の設定中、2項目を除いて肯定的な意見の割合が80%を超えており、本校の教育活動に対する高い満足度を維持している。キャリア教育の充実を通して、「私は、将来の進路や職業について考えている」の肯定的意見の割合が更に高まるよう、外部の専門機関との連携を強化しつつ、中高6年間を見据えたキャリア教育の推進について、中高合同授業の実施等も含め、高等学校と連携しながら検討を進めていきたい。また、「私は、担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」の肯定的意見の割合が昨年度比で10ポイント減少している。「私は、毎日学校に行くのが楽しい。」「私は、学校生活についての先生の指導には納得できる。」の肯定的意見の割合の減少を踏まえ、安全で安心な学校づくりの充実をめざし、早急な教育相談体制の再構築に取り組む必要がある。</p>	<p>第1回(令和7年6月11日)</p> <ul style="list-style-type: none"> めざす学校像、中期的目標、本年度の達成目標、取組内容等に関して、生徒の通学範囲が変更になって以降も、中学校に来る生徒のアンケートの回答は高いポイントで維持できている。中高ともに、分野の特色を生かした指導を行い、生徒を育成していただきたい。 中高ともに、SNSやHPを活用しながら、広報活動の充実に力を入れていただきたい。 地域に根差した教育を行い、地域で生徒を育てていくことも視野に入れていただきたい。 <p>第2回(令和7年10月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績の分布に関して、各分野の生徒同士が刺激しあい、成績も上昇傾向にある。右肩あがりの分布になっている。今後も引き続き、教育活動の充実に取り組んでいただきたい。 総合的な学習の時間に中高合同授業を実施することによって、探究的な学びにつながっている。高校から入学している生徒、中学から入学している生徒などさまざまな先輩の姿を見て刺激を受けている状況であり、中学生と高校から入学している生徒との交流も活発になっている。中高一貫教育校としての特色ある教育活動であるので引き続き、取組を充実させていただきたい。 <p>第3回(令和8年2月4日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて、ホームページの更なる充実について引き続き取り組んでいただきたい。広報手段は多様化していくものの、ホームページの閲覧は変わらず多い。 中学においては、1人1台端末の活用については、さらに工夫を重ねていく必要がある。検討を願いたい。 労働安全衛生管理体制の充実に関して項目が追加された。引き続き、時間外労働時間の削減に取り組んでもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 特色ある教育環境のもと、学びと育ちの質を高める	(1) 確かな学力を育成する	<p>ア 校内研究授業や授業アンケート(1学期・2学期)を活用し、「主体的・対話的で深い学び」や「教科等横断的な学び」「言語活動の充実」等の視点を生かした授業・単元の工夫・改善を進めていく。</p> <p>イ ICT環境を充実させるとともに、1人1台端末をはじめ、ICT機器やデジタル教材を有効に活用した授業を実施する。また、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」に関する研修を行う。</p>	<p>ア 主体的・対話的で深い学びの視点を生かした校内研究授業を全員の教員が年間1回以上実施する。 [全員が1回実施]</p> <p>イ (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、1人1台端末を効果的に活用している」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [89%]</p>	<p>ア 全教員が校内研究授業を2回ずつ実施した。どの授業においても、教材や学習活動等において創意・工夫が見られた。授業実施後はそれぞれの課題に基づき授業改善に取り組んでいる。(◎)</p> <p>イ 日常的に、ICT(1人1台端末・電子黒板等)を活用した授業を実施している。中高の教職員合同で生成AIに関する校内研修を実施し、業務への活用を進めている。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は87%であった。(○)</p>

府立咲くやこの花中学校

	<p>(2) 高め合う集団を育成する</p>	<p>ウ 学力調査（全国学力・学習状況調査、大阪府チャレンジテスト、学力推移調査）などを活用し、生徒の学力実態や学習の状況を把握することで、授業改善を進め、基礎学力、言語能力のよりいっそうの定着を図る。</p> <p>ア 学校行事や委員会活動への取組を通して、集団の中で役割を分担しながら、チームワークやリーダーシップについて学ぶ機会を設定する。</p> <p>イ 学級活動や分野別学習、部活動等の場で、一人ひとりの個性や専門性を生かしながら、交流や協働を促す教育活動を充実させる。</p> <p>ウ 教科学習において、ペアやグループでの学習活動を取り入れ、自分たちの考えを伝えたり、深めたりする機会を充実させる。</p>	<p>ウ (生徒対象)学校教育自己診断、「日々の学習を通して学力の向上が感じられる」の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。 [77%]</p> <p>ア 中高合同授業を1回以上設定する。 [2回]</p> <p>イ 全国学力・学習状況調査において「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で、肯定的な回答の割合について80%以上を維持する。 [85%]</p> <p>ウ (生徒対象)学校教育自己診断、「学校の様々な取り組みで、考える力や自主性を伸ばすことができる」の項目で、肯定的な回答の割合について90%以上を維持する。 [92%]</p> <p>ア (生徒対象)学校教育自己診断、「日々の学校生活を通して、正しい学習態度が身につくよう努力している」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 [83%]</p> <p>イ (生徒対象)学校教育自己診断、「学校のルールをすすんで守るように心がけている。」の項目で、肯定的な回答の割合について85%以上を維持する。 [90%]</p> <p>ウ 図書館や読書活動を活用した教育活動を2回以上実施する。 [2回]</p>	<p>ウ 年に2回(4月・9月)、中高一貫校学力推移調査を行い、生徒に学力に関する推移を確認させた。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は81%であった。(○)</p> <p>ア 10～12月に、高等学校の総合学科1年生の生徒とともに「もしも過去の○○が□□だったら」をテーマに探究活動を5回実施した。また、12月17日に、高等学校の演劇科3年生の生徒が中学2年生を対象にワークショップ型授業を実施した。(◎)</p> <p>イ R7全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答は86%であった。(○)</p> <p>ウ 生徒対象の学校教育自己診断において肯定的な回答は92%であった。全ての教科において、ペアワークやグループワークが取り入れられ、対話的な学習が定着している。(○)</p> <p>ア 4月当初にプリント「学びの型」を全生徒に配付した。またプリント「授業者スキル」「担任スキル」を教員で共有し、生徒の学習習慣の定着を図った。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は87%であった。(○)</p> <p>イ 登校時、正門の前で、高等学校生活指導部とともに遅刻や服装の指導、挨拶指導を行った。併せて毎週実施される中学校集会で月に1度、頭髪・服装検査を実施した。生徒指導部を中心に「校則の見直し」を進めている。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は95%であった。(◎)</p> <p>ウ ブックトークなど、図書館や読書活動を活用した教育活動を2回実施した。また、日々、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育成している。また、生徒主体の図書委員会では、本の貸出しランキング発表やブックトークなど、啓発活動を実施している。R7全国学力・学習状況調査において、「読書は好きですか」という質問で肯定的回答は72%であり、一昨年のR5調査より5ポイント上昇している。3年生の国語の授業において、12月・3月にブックトークを実施し、授業アンケートにおいて肯定的なコメントが寄せられた。(○)</p>
	<p>(3) 自主自立の習慣を育成する</p>	<p>ア 年度当初に、望ましい学習規律や自主的な学習習慣を身につけさせる指導を行う。また学期ごとに学習計画・生活習慣を確認する取組を進める。</p> <p>イ 「挨拶をする」「服装を正す」「時間を守る」について、全教職員で指導し、ルールやマナーを進んで守る集団を育成する。</p> <p>ウ 図書館を活用した教育や図書委員会の活動、朝の読書活動を通して、本に親しむ態度を育む。</p>		

府立咲くやこの花中学校

<p>2 一人ひとりの夢と志を育み、個性と才能を養う</p>	<p>(1) 分野別学習の充実を図り、高等学校・総合学科の系列学習につなげる</p> <p>(2) 高等学校と連携し、6年間を見通した体系的、継続的なキャリア教育を行う</p>	<p>ア 日常の分野別学習とともに、分野別体験活動(修学<研修>旅行)や文化発表会等での取組を通して、分野の専門性をさらに伸ばしていく。</p> <p>イ 4つの分野の学習に直接結びついた部活動を通して、分野に関する基礎的内容を定着させるとともに、発展的内容にもチャレンジさせる。</p> <p>ア 高等学校と連携した教育や高校生との交流の中で、生徒が将来の進路や職業について考える機会を設け、基礎的・汎用的能力を育成する。</p> <p>イ 進路に関する講演や系列別ガイダンス、職業体験学習を通して、主体的に進路を選択しようとする意志や態度を養う。</p>	<p>ア (生徒対象)学校教育自己診断、「高校での系列学習につながるよう分野学習に積極的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答の割合について85%以上を維持する。 [R6 89%]</p> <p>イ (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、部活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合を95%以上にする。 [R6 93%]</p> <p>ア 高校生や卒業生による進路に関する講話を各学年で1回以上実施する。 [R61年・3年 各1回]</p> <p>イ 外部の専門機関と連携したキャリア教育を3年生で3回以上実施する。 [R6 2回]</p>	<p>ア 木曜日の5・6時間目、高等学校の協力を得て、計画通りに分野別学習を実施している。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は91%であった。(○)</p> <p>イ 計画通りに部活動を実施することができた。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は94%であった。(○)</p> <p>ア 1～3年生合同で、3月に卒業する高校生を講師として招いて進路講話を実施した。身近な先輩からのアドバイスということもあり、高校卒業後の進路実現に向けて、生徒の理解が深まった。(○)</p> <p>イ 外部の専門機関と連携して「はたらく」を考える」をテーマに、事後指導を含めて3回キャリア教育を実施した。(○)</p>
<p>3 安全で、安心して学べる学校づくりに努める</p>	<p>(1) 生徒・保護者が安心できる、安全な教育環境づくりに努める</p> <p>(2) 健康や体力を保持・増進する力を育成する</p> <p>(3) 人権教育を推進し、公平で公正な社会を実現しようとする意欲を培う</p>	<p>ア いじめについてのアンケートや心理テスト、教育相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見、組織対応に努める。</p> <p>イ 自然災害や犯罪、薬物乱用、交通安全、情報モラル等の視点から生徒の危機管理能力を高める。</p> <p>ア 保健委員会や体育委員会の活動・給食指導を通して、健康や体力の保持・増進に関する生徒の意識を高める。</p> <p>イ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の心のケアを図り、不登校の未然防止に努める。</p> <p>ア 様々な教育活動において、生徒の人権意識を高めるための指導を行う。高等学校とも連携し、人権教育に関する研修を行う。</p> <p>イ 3年間を見通した上で、人権的な課題をテーマにした総合的な学習を実施する。</p>	<p>ア (生徒対象)学校教育自己診断、「先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答の割合を92%以上にする。 [91%]</p> <p>イ (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目で、肯定的な回答の割合について90%以上を維持する。 [90%]</p> <p>ア (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、自分の健康管理を心がけている」の項目で、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 [85%]</p> <p>イ SC等と連携した校内研修会を2回以上実施する。 [2回]</p> <p>ア (生徒対象)学校教育自己診断、「私は、相手を思いやり人権を大切にすることができている」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 [87%]</p> <p>イ 人権をテーマとする総合的な学習を2回以上実施する。 [2回]</p>	<p>ア 6月と11月にhyper-QUを実施した。結果については、教職員全体で共有した。また、いじめアンケートを各学期に1回ずつ、計3回実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は90%であった。(○)</p> <p>イ 10月10日(金)に、2年生を対象に学校薬剤師による薬物乱用教室を実施した。また12月3日(水)に、全学年を対象に警察署より講師を招いて交通安全教室を実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は95%であった。(○)</p> <p>ア 11月7日(金)に、「学校給食への関西広域連合域内特産農産物提供事業」と連携する形で、栄養教諭による食育指導を実施した。生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は84%であった。(○)</p> <p>イ 9月5日(金)に「発達障がいグレーゾーンの子の実際」、1月9日(金)に「カウンセリングマインド」をテーマに、SCを講師として教員研修を実施した。(○)</p> <p>ア 生徒対象の学校教育自己診断において肯定的回答は95%であった。(◎)</p> <p>イ 11月18日(火)に生徒・保護者・教職員合同で「ヤングケアラーって何」をテーマに人権講演会を実施した。また、12月2日(火)には車いすバスケットボール体験学習を実施した。2月20日(金)には国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会を観戦し、障がいのある方への理解を深めることができた。(○)</p>

府立咲くやこの花中学校

4 組織力を向上させ、開かれた学校づくりを進める	(1) 働き方改革を推進する	<p>ア 業務の効率化を進め、教職員の長時間労働を縮減していくとともに、高いコンプライアンス意識に基づいた、働きやすい職場環境づくりに努める。</p> <p>イ 産業医や学校医からの助言をふまえて、生徒や教職員の健康・安全に配慮した職場環境づくりに努める。</p>	<p>ア 時間外在校等時間月 80 時間以上の職員の割合について 5%以下を維持する。 [1.3%]</p> <p>イ (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、健康管理への指導に努めている」の項目で、肯定的な回答の割合について 85%以上を維持する。 [88%]</p>	<p>ア 様々な取り組み(ノークラブデー、一斉退庁日、こまめな声かけ等)により、時間外在校等時間月 80 時間以上の職員の割合は 0%であった。(◎)</p> <p>イ 月 1 回、学校医より保健管理、健康管理、健康診断の事後措置等、助言や指導を行っていた。保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 96%であった。(◎)</p>
	(2) 家庭、地域、専門機関と連携した教育活動を行う	<p>ア 授業参観(各教科・分野別学習)や学期末懇談会、学校行事の見学等の機会を通して、保護者の学校教育への理解を促す。</p> <p>イ 4つの分野で、全国レベルのコンクールへの出場や出展をはじめ、外部の専門機関や企業等と連携した活動を実施する。</p> <p>ウ 地域の協力を得ながら、社会と連携した貢献的な活動を実施する。</p>	<p>ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校の授業参観や学校行事に参加して、子どもの様子が把握できている」の項目で、肯定的な回答の割合について 80%以上を維持する。 [84%]</p> <p>イ 外部の機関と連携した教育活動を 5 回以上実施する。 [6 回]</p> <p>ウ 清掃活動や社会啓発活動に 1 回以上取り組む。 [1 回]</p>	<p>ア 6月4日(水)の中高合同体育祭、7月1日(火)の百人一首大会、10月24日(金)の文化発表会等、多数の保護者に参観いただいた。また、11月20日(木)に、分野別授業参観・総合学科説明会を実施した。保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 93%であった。(◎)</p> <p>イ 教育産業や企業、学校医等の外部機関と連携した教育活動を 15 回実施した。(◎)</p> <p>ウ こころの再生府民運動の一環として3年生が R5 より継続して「朝のあいさつ運動」を実施している。今年度スクール表彰受賞となった。(◎)</p>
	(3) 情報発信・研究活動を充実させる	<p>ア 本校の特色や魅力、生徒の学校生活の様子について、学校ホームページやパンフレット、ポスター等を通して、積極的な情報発信や広報活動を行う。</p> <p>イ 先進的な研究を行っている学校への研究視察や校内研修を通して、教職員の職能開発を進める。</p>	<p>ア (保護者対象) 学校教育自己診断、「学校は、ホームページ・プリントなどで情報をよく流している」の項目で、肯定的な回答の割合について 95%を維持する。 [95%]</p> <p>イ 先進的な研究校への視察を 2 回以上実施する。 [3 回]</p>	<p>ア 7月以降、一時的に学校ホームページの更新が滞った時期があり、保護者対象の学校教育自己診断において肯定的回答は 85%にとどまった。(△)</p> <p>イ 研究視察を 2 回実施し、教員間で情報共有を行った。(○)</p>